

## 米倉教公の週間為替市場見通し

2/29 日週号

ドル/円予想レンジ 111.00 - 115.00 円

## 『FRB の追加利上げ観測再燃するか?』

## ■前週の市場動向

前週のドル/円の週足では、4週間ぶりの陽線引けとなった。週明けは日米ともに株高となったことでドルが買われたが、再び日米株安や米長期金利低下したことからドル売りが再燃した。黒田日銀総裁が、『量・質の面の追加緩和も選択肢』などと発言したことでドルの買い戻しにつながった。しかし、再び原油下落を受けて株安・米長期金利が低下するとリスク回避の円買いが強まり、一時 111.03 円まで下落した。ただ、11 日の安値 110.96 円がサポートとして意識されると、次第に下げ幅を縮小させた。原油価格が持ち直すと株価が反発し、米長期金利が上昇に転じたことで 112 円台を回復した。週末にかけて米経済指標の良好な結果を受けて、FRB の追加利上げ観測が再燃したことで総じてドル買いが強まった。ドル/円は週末 113.98 円まで上昇したが、節目となる 114.00 円が意識され上抜け出来ずに終了した。原油価格の動向に振り回される市場環境となっている。

## ■今週の注目点：G20 の政策協調と原油価格の動向に注意

G20 の結果を市場が好感するのか、それとも失望となるのかが大きなカギとなる。ただ、市場では、現状の不安定な金融市場に対する決定的な対応策を打ち出せる可能性は低いとみていることから、会合での期待感は薄い。それだけに、サプライズ的な安定策が打ち出されると、G20 明けの週初ウェリントン市場動向で窓を開けての動きになる可能性があり注意が必要だ。また、前週の米経済指標は総じて良好な結果となった。そのため、週末発表の 2 月米雇用統計なども良好な結果となると、米 FRB による 3 月追加利上げへの期待が高まる。一方、ドル高・米企業業績悪化との連想から、米国株下落という動きにつながりやすい。ドル高により再び原油価格が不安定になる可能性もあり警戒が必要だ。

## ■テクニカル的な見解

2 月 23 日付のシカゴ IMM 投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の +47,901 から +52,734 へと円の買い持ちが増加したことで、円高圧力は継続している。ただ、日足では 2 月 11 日に付けた安値 110.96 円と 2 月 14 日に付けた安値 111.03 円でダブルボトムを形成している。ネックラインとなる 2 月 16 日の高値 114.87 円を上抜けると投機筋からのストップスの投げが入りやすく円安が加速する可能性がある。一方で、週足で雲の下限が 115.515 円にあることや、115 円台では急速な円高で為替予約に出遅れた本邦輸出勢の動きで上値を抑える。一方、円高局面では、為替介入は日本自ら『為替操作国』のレッテルを貼ることになり、日米関係配慮として事実上の封印となる可能性が高く政府・日銀は苦境に立たされる可能性がある。取り敢えず下値の目途は 14 日の安値 111.03 円や 11 日の安値 110.96 円となる。上値目途は 18 日高値 114.32 円、17 日高値 114.50 円、16 日高値 114.87 円が意識される目途となる。



## ★先週の気になる出来事

大統領選で有権者の関心を引くために、ヒラリー・クリントン氏やドナルド・トランプ氏も名指しで日本・中国などアジア諸国が為替操作で人為的に米国の輸出価格を抑えてきたと批判している。ここで気がつくのは何故アジアだけ？欧州だって北欧だってマイナス金利を導入して、さらに ECB は 3 月には追加緩和観測が高まっている。でも、欧州ではなく、『アジア』が為替操作して米国の輸出力低迷を後押ししているということだ。やっぱり白人同士は仲良し好し？

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

#### 【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

#### 【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

#### 【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

#### 【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

#### 【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

#### 【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

#### 【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

#### 【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。